

旧高橋倉庫

高橋倉庫は、卸売り用の商品を貯蔵するために 1923 年に建てられました。この倉庫は 1989 年に改修され、ステンドグラス美術館としてオープンし、イギリスやヨーロッパの教会で実際に使用されていたものを元の状態に修復したステンドグラス窓を展示しています。展示されている窓のほとんどは、20 世紀初めに作られたものです。

故郷の新潟から小樽にやって来たとき、高橋直治（1856 年–1926 年）は 18 歳でした。高橋直治は 3 年間荒物商の店員として働き、そこで商いを学んだあと、独立しました。高橋直治は、味噌や醤油の醸造を始め、1899 年に弟と一緒に米、味噌、醤油、水産物などの商品の取引を行う会社を開業しました。

高橋家は 20 世紀初めに生活必需品に投機すること、つまり、豆や穀物を安く買い占め、その後価格が上がるまで貯蔵してから販売して利益を得ることで、財を成しました。1914 年にヨーロッパで起こった戦争により、ルーマニアやハンガリーなどヨーロッパの主要生産国からの豆類の輸出に影響が及ぶようになると、高橋家をはじめとする小樽商人はこの状況を利用しました。高橋直治は 1 シーズン分の北海道の小豆の収穫の多くを買い占め、日本の大手海運会社の 1 つである、日本郵船会社（現在は日本郵船株式会社として知られる）と交渉のうえ、ロンドンの貿易会社に直接出荷しました。高橋直治は、後に政界に進出したとき、「小豆将軍」として称されるようになりましたが、高橋直治自身がこの名を思い付いたと考えられています。